

知ると楽しい 楽しいからもっと知りたい！教養の作り方⑧

教養の定番「読書」

学力研常任委員 深沢 英雄

一、「えー。本読まないの!」

大学の講義で「最近読んでよかった本を一冊選び、班のメンバーに紹介する」というワークをしました。説明が終わったあと「質問はありませんか?」と聞くと、ある学生が「先生、私、本を読んでないんですが。どうすればいいですか?」と尋ねてきました。「最近でなくてもいいので、読んだ本はない?」というと、「私、大学に入って一冊も本を読んでいません」というのです。「講義や、ゼミで本を読んでないの?」と重ねて聞くと「ゼミの時は先生が印刷してくれるから、そのプリントを読みました。」と答えてくれました。

今年の二月二十六日に、全国大学生協(東京)の一日の読書実態調査で、「大学生 読書時間ゼロ 半数超」という記事が載って

いました。大学生の53%がゼロを回答したそうです。120分以上と答えた学生は、5.3%。「本を読むべきだ」と答えている学生は84%です。教育学部の学生です。超忙しい教育現場に入って、本を読むのでしょうか。

大学で担当していた学生が、今年講師で小学校の教師になりました。採用試験に合格したので、久しぶりに出会いました。

「先生、今も本は読んでます。卒業前に、先生から現場に入ると本が読めなくなるよ。自分で工夫しないと、と言われたことがずっと頭にあって、自分なりに時間を決めて本を読んでいます。」と語ってくれました。こういう若い先生に出会えると嬉しいです

二、なぜ本を読むのか

幻冬舎の社長の見城徹さんの読書論の本の中に、自己を成長させる上でのプロセスが載せられています。次の3つを繰り返すことが大事だと書いています。

「私は、自己検証、自己嫌悪、自己否定の三つがなければ、人間は進歩しないと言っている。自己検証とは、自分の思考や行動を客観的に見直し、修正すること。自己嫌悪とは、自意識過剰さや自己顕示欲を恥じ、自分のズルさや怠惰さに苛立つこと。

自己否定とは、自己満足を排し、成長していない自分や、自分が拠って立つ場所を否定し、新たな自分を手に入れることだ。」「現状に安住し自己検証と自己嫌悪、自己否定を忘れるようなことがあれば、生きていく価値がないとさえ思う。自分が駄目になっていく恐怖、老いていく恐怖と常に戦ってこそ、僕は僕であり続けられる。そうした感情を味わえるのが、まさしく読書なのだ。本を読めば、自分の人生が生ぬるく感じるほど、苛酷な環境で戦う登場人物に出会える。その中で我が身を振り返り、きちんと自己検証、自己嫌悪、自己否定を繰り返すことができる。読書を通じ、情けない自分

と向き合ってこそ、現実世界で戦う自己を確立できるのだ。」と書いています。

三、教師は何のために本を読むのか

では、教師は何のために本を読むのでしょうか。

教師は専門家としての必要な技能・識見・教養・情報を貪欲に身に付けなければなりません。教師としてぜひ身につけなければならぬことは、いろんな教育書を読むことよって、相当吸収することができます。単行本・雑誌を問わず、ふんだんに読み取ってほしいものです。時間はかかりませんが、時間をかけただけ十分ねうちのありものとして返ってきます。

岸本先生に、「深沢君。若い時に本をできるだけ読んでおきなさい。ほんの少しずつの蓄積が三年後、五年後、十年後にみのあるものとして、世のため、人のため、そして自分のために貢献できるから。年をとると、哀しいことに本を読むとすぐ目が疲れるし、体力・根気がとみに衰えてくるよ。読みたい本はわんざさかあるのに。若い

ころにもっと本を読んでおけばよかったといつも後悔している。」と言われました。「えー。岸本先生がですか?。」とびつくりしました。岸本先生の家は、コンクリート製です。教え子が設計してくれたそうです。図書館かと思うほどの本がある岸本先生です。え、読み足りないのか思ったものです。

今はなんでもネットの時代です。ある先生がこう言っていました。「最近の学生や若い先生の指導案を読むと結構うまく書いています。でも実際の授業を参観すると全然なのです。それは、ネットで調べて、指導案を書くので手軽に形としてはそこそこの指導案ができるからです。」と言っていました。みっちり本を読んでの学習が足りていないようです。

四、雑学が専門家としてのレベルを上げる

岸本先生に言われたのは、「教育関係の本だけではなく、それ以外の幅広い分野の本を読みなさい。世の中の動き、歴史や経済や科学の動向など、まともな本を読むべきです。雑学です。十年、二十年後にその雑

学で得たなにかがとても生きてきます。幅広い考え、独創的な発想の基盤は雑学によって築かれます。特定の分野に傾注し、趣味人の域を超えて、専門家はだしになることもあるかも分かりません。それは実に楽しいことです。どんな職業についても、どんな地位を得ていても、雑学の豊かな人と、それに乏しい人では、何かが一味違ってきます。生きていく上での幅と厚味と余裕の何割かは、本業以外の領域での雑学の厚薄によるところが多いのです。それは専門的な仕事、つまり教師としての力量の高低にも、かなり影響を及ぼしていきます。」

ルネ・デカルトは「良き書物を読むことは、過去の最も優れた人達と会話をかわすようなものである。」ソクラテスは「本を読むことで自分を成長させていきなさい。本は著者がとても苦労して身に付けたことをたやすく手にいれさせてくれるのだ。」と述べています。

本を一冊読むと次の読むべき本に出会います。読めば読むほど、疑問が生まれてきてまた本を読んでしまいます。本は、教養を生む源泉です。